



MMPI-3のアップデート（米国での取り組み）

2020年にミネソタ大学はMMPI-3を出版し、それ以降も新しい比較群の追加や参考文献の更新などアップデートが続けられています。

米国ではMMPI-3を採用試験、特に公共安全にかかる警察官、消防士、刑務官の採用試験に活用する取り組みが行われており、MMPI-3の結果から必要な情報を提供する解釈レポートが開発されています。

また多様性への配慮が引き続き重要な課題とされており、米国では様々な出自（人種）の人々やLGBTIQ+の人々にMMPI-3を実施し、結果の一般化を促進することが目標とされています。MMPI-3は初めから性別ごとの基準を設けない検査として作成されていますが、さらなる検証に基づいて必要に応じた解釈レポートを提供できるような取り組みが行われています。

ミネソタ大学は米国内で標準化を行い英語版とスペイン語版を開発しました。さらに各国翻訳版を開発するための国際的な出版パートナーを引き続き探しており、現在までにデンマーク語、オランダ語/フレミッシュ語、ドイツ語、ギリシャ語/キプロス語、ヘブライ語、ヒンディー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポルトガル語、スペイン語、スウェーデン語の13の出版契約が締結されています。このうち最も早く2022年9月に日本版の公刊に至りました。

現時点でミネソタ大学はMMPI-2やMMPI-2-RFを廃止する時期を定めてはいませんが、MMPI-3はこれらの代替版として作成されており、標準化データが最新であり臨床に関連する内容が充実していることから、すべての利用者に新版への移行を強く推奨しています。日本ではMMPI-2やMMPI-2-RFは公刊されておらず、新版への移行がより強く推奨されるところです。米国における販売状況はMMPI-3が50%、MMPI-2-RFが26%、MMPI-2が24%となっております。日本においてはすでにMMPI-3がほぼ100%となっております。

ミネソタ大学はウェビナー、オンライン学習システム、講義用資料、ワークショップなどを提供しており、日本においても今後様々な取り組みが行われる予定です。現在、MMPI-3日本版研究会ホームページで動画「MMPI-3日本版概要」が公開されており、今後も新しい動画の追加が予定されています。

（本文章はミネソタ大学が2022年10月に発表した“Update on the MMPI-3”を元に株式会社三京房編集部が作成いたしました。）